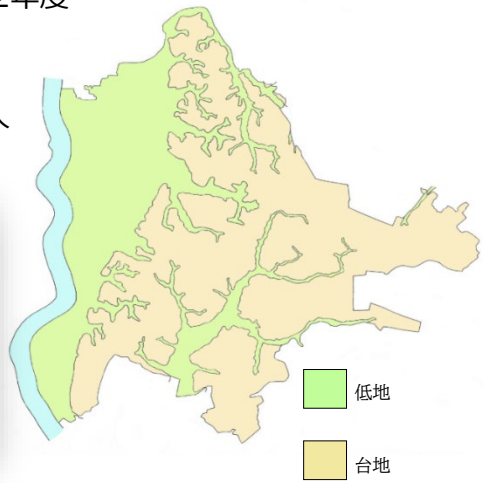
09　松戸市文化財保存活用地域計画【千葉県】

【計画期間】令和５～12年度
（8年間）
【面　　積】61.38㎢
【人　　口】約49.7万人



◆ 指定等文化財件数一覧

指定等文化財は、６０件（ほかに選定保存技術1件）
未指定文化財は、２，３６７件把握

種類・種別			国指定	県指定	市指定	国登録	県登録	国選定	県選定	市選定	合計
有形文化財	建造物		1	0	13	2	0	－	－	－	16
	美術工芸品	絵　画	0	0	3	0	0	－	－	－	3
		彫　刻	1	0	5	0	0	－	－	－	6
		工芸品	1	1	2	0	0	－	－	－	4
		書跡・典籍・古文書等	2	2	5	0	0	－	－	－	9
		歴史資料	0	0	4	0	0	－	－	－	4
		考古資料	1	0	2	0	0	－	－	－	3
無形文化財			0	0	0	0	0	－		－	0
民俗文化財	有形の民俗文化財		0	0	0	0	0	－	－	－	0
	無形の民俗文化財		0	1	1	0	0	－	－	－	2
記念物	遺跡		0	0	10	0	0	－	－	－	10
	名勝地		1	0	0	0	0	－	－	－	1
	動物・植物・地質鉱物		0	1	1	0	0	－	－	－	2
文化的景観			－	－	－	－	－	0	0	－	0
伝統的建造物群			－	－	－	－	－	0	0	－	0
選定保存技術			－	－	－	－	－	1	0	0	1
合計			7	5	46	2	0	1	0	0	61

◆ 歴史文化の特徴　五つのストーリー

(1)豊かな海の記憶と水辺の暮らし

(2)交流の広がりから高城氏の時代へ

(3)宿場・河岸から街へ　－人とモノの行き交う場で育まれた歴史文化－

(4)小金牧から常盤平団地へ

(5)祈りと娯楽の系譜

（2）河原塚古墳群
１号墳の被葬者

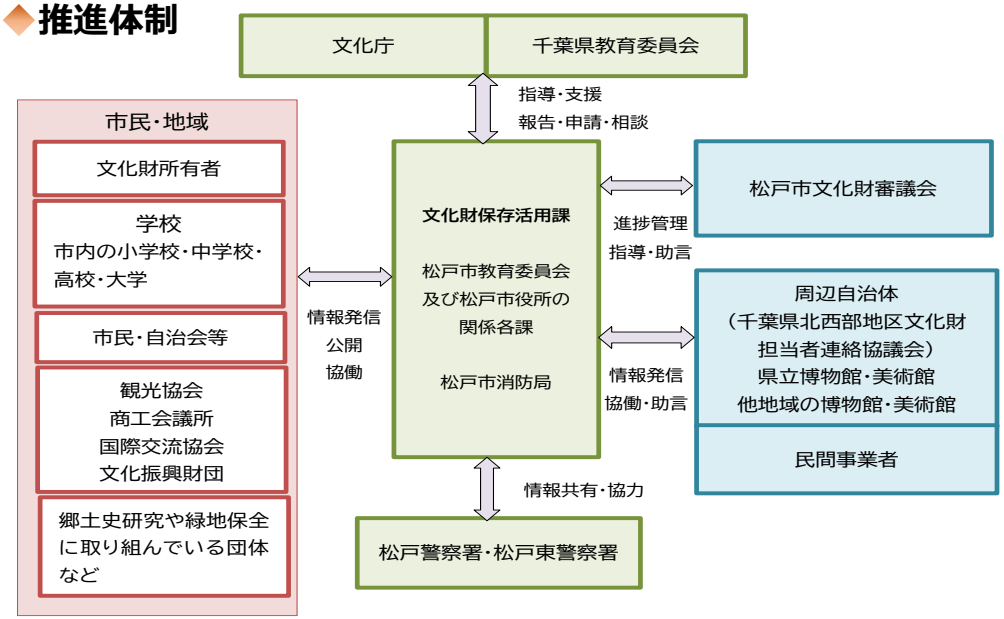
（3）徳川昭武肖像
明治17年、戸定邸を建てて移住。

（1）市立博物館「縄文の森」
：復元された竪穴住居

（4）常盤平団地：星形住宅

（5）矢切の渡し

◆ 推進体制



基本理念

郷土の歴史文化や文化財についての学びを通じて松戸市の価値や魅力を見出し、大切に次の世代へ継承すると共に多くの人々へ伝える。そのことにより市民の郷土への愛着や誇りを育み、相互のつながりを深め、行政と市民が一体となって「文化と教養のまちづくり」を実現する。

◆基本方針

1. 松戸の歴史文化をより深く、より広く調べる
2. 大切な文化財を守り、次の世代へ継承する
3. 縄文からの松戸の歴史文化を伝える
4. 松戸の歴史文化を守るため、地域とのつながりを深める

◆課題

①新たな調査への取り組みが必要
②各部署がこれまでに行ってきた調査の着実な継続が必要
③教育委員会が所蔵する資料のさらなる調査研究が必要

④把握している文化財や所蔵資料のデータベース化の推進
⑤埋蔵文化財照会データの新しい検索方法の確立が必要
⑥継続的な現状確認の強化と計画的な修復が必要
⑦分散所蔵する美術作品等の定期的な点検と修復が必要
⑧歴史公園等の維持管理に関する課題
⑨現状確認で得た情報の活用が必要
⑩計画的な戸定邸・庭園の維持管理と「戸定邸保存活用計画」の策定
⑪資料の収集と整理作業に必要なスペースの確保と環境整備
⑫専門職員の確保と育成
⑬後継者確保と育成のサポートが必要

⑭展示空間の刷新と施設の拡充及び確保が必要
⑮学校との連携促進
⑯若い世代へのアピローチを強化
⑰普及事業における新しい情報管理・発信方法の活用促進
⑱周辺市、研究機関・研究者、文化財関係団体・施設等との連携強化
⑲地域振興・観光への活用促進

⑳文化財所有者等や地域とのつながりを強化
㉑財政的な支援と支える仕組みづくりが必要

◆基本的な施策

1. 新たな調査への取り組み
2. 継続的に行っている調査の推進
3. 所蔵資料に関する調査研究の促進
4. 文化財や所蔵資料におけるICTを活用した整理等
5. 現状確認の継続的な実施
6. 現状確認に基づく修復・整備計画の立案
7. 「保存活用計画」に基づく維持管理の実施
8. 維持管理に必要な環境整備の検討
9. 無形の民俗文化財の継承支援
10. 「博物館リニューアル基本構想・基本計画]の推進
11. 展示空間・施設の整備と刷新
12. 幅広い世代へ向けた情報発信の強化
13. 地域振興や観光への活用促進
14. 地域とのつながりの強化
15. 市内全域における文化財保護の支援

◆取組の例

5 美術作品・資料に関する調査

近現代の松戸ゆかりの作家の作品や関連資料について、調査研究と収集を継続する。

■美術館準備室、市民、専門家
■R5～12

19「戸定邸保存活用計画」の策定と推進

「戸定邸保存活用計画」（建物編）を策定する。防災対策の実施や、雨水浸透、排水機能不全、地盤沈下、床板変形等を改善するための大規模修理、徳川昭武居住期の状態への復原を目指すための調査を実施する。

■戸定歴史館、専門家　■R5～12　重点

26 「こどもミュージアム」など新たな展示空間の創設

市立博物館のリニューアルにあたり、生徒・児童に特化した展示空間を新設する。

■博物館　■R5～12　重点

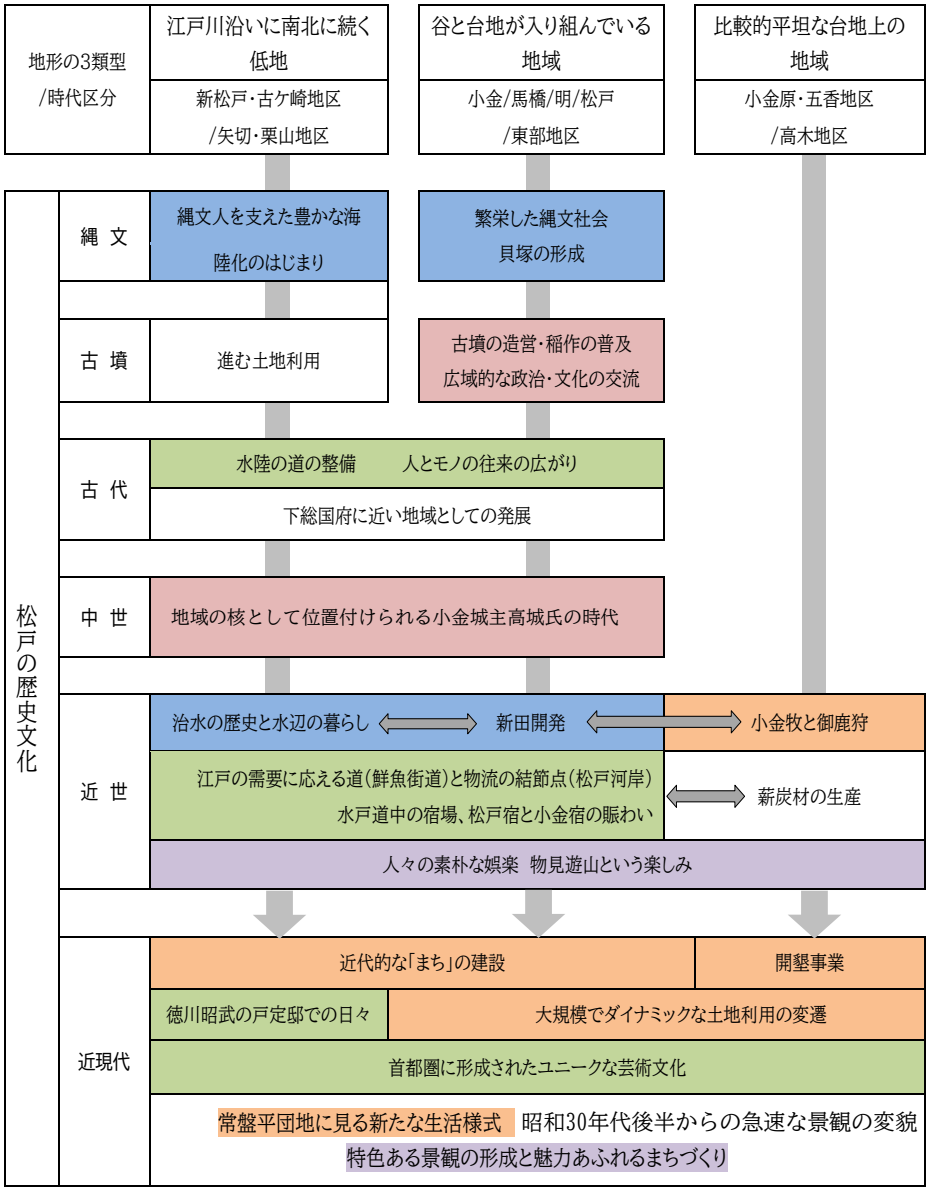
33 「歴史の道」の整備

文化財を通じて松戸の歴史を知る・探る松戸市版「歴史の道」を整備する。

■文化財保存活用課、博物館、戸定歴史館　■R5～12

09　松戸市文化財保存活用地域計画【千葉県】

ストーリーを活かした総合的な取組



歴史文化に関わる特徴を構成する要素の整理

ストーリー１：豊かな海の記憶と水辺の暮らし

江戸川沿いの低地や谷を生業の場として営まれた暮らし。海の恵みを享受し、繁栄した縄文社会。貝塚が多く残り、縄文時代の遺跡の多さから「縄文銀座」とも称される松戸市。恵みとともに災いをもたらした「川」との共存。大規模な治水事業と新たなまちづくりの歴史。

ストーリー2：交流の広がりから高城(たかぎ)氏の時代へ

小金や河原塚、栗山古墳群の調査成果から明らかになった広域的な政治・文化の交流のはじまり。小金城主高城氏が、地域の核として存在した時代。本土寺をはじめ、高城氏に関連する寺社が多く存在し、高城氏の繁栄を今に伝える松戸市の北部地域。

ストーリー3：宿場・河岸から街へ －人とモノの行き交う場で育まれた歴史文化－

水戸道中と松戸宿・小金宿、鮮魚街道と松戸河岸といった「人とモノの行き交う場」で育まれた歴史文化。大きな変革が進んだ時代に徳川昭武が穏やかな後半生を過ごした戸定邸。近代以降には、東京近郊という恵まれたロケーションの松戸で自らの芸術を育んだ作家たちや旧東京高等工芸学校の関係者により、ユニークな芸術文化が形成された。

ストーリー4：小金牧(こがねまき)から常盤平団地へ

市域東部に広がる台地を舞台とする営み。壮大な御鹿狩(おししがり)、小金牧の開墾と農業、ゴルフ場や飛行場の建設、戦後の土地区画整理事業など、ダイナミックで多彩な変貌を遂げた地域の歴史。そして常盤平団地に象徴される新しいライフスタイル。今日の「まち」の基盤が形成される。

ストーリー5：祈りと娯楽の系譜

穏やかな暮らしやこどもの成長を願う素朴な祈りと、祭礼や有名な社寺への参詣という遊山の歴史。地域の人々が身近に感じ、親しんできた松戸の自然と癒し。今に引き継がれる「娯楽」の系譜。

ストーリー３　宿場・河岸から街へ　－人とモノの行き交う場で育まれた歴史文化－

水戸道中と鮮魚街道は江戸川沿いの低地に位置する松戸で接続しており、舟を利用して人やモノを運ぶ水の道ともアクセスしていました。江戸で消費される生鮮食料品や燃料を供給する重要な役割を担うことになり、松戸の宿と河岸は一層賑わいを増すことになります。「人とモノの行き交う場」で育まれた歴史文化です。明治時代には、松戸の町は東葛地方の政治・経済の中心地として成長します。水戸徳川家当主であった徳川昭武は、眺望の素晴らしい戸定の地に「私的な住まい」を設けました。若くして激動の時代を経験し、多彩な趣味を楽しみながら長い隠居生活を送ります。現在は、閑静な環境をそのままに歴史公園として整備され、多くの人々の憩いの場を提供しています。戦後には岩瀬に東京高等工芸学校から改称した東京工業専門学校（現千葉大学工学部）が移転して来ます。日本の輸出と産業振興に寄与するデザイナーを育成しました。松戸の風土に惹かれた作家たちは、ユニークな芸術文化をかたちづくってきました。

◆構成文化財

- 旧徳川家松戸戸定邸（国・建造物）
- 旧徳川昭武庭園（国・名勝）
- 旧徳川昭武資料（市・歴史資料）
- 水戸道中と宿場〈松戸宿・小金宿〉
- 鮮魚街道　　・松戸の河岸跡
- 千葉大学園芸学部
- 陸軍工兵学校
- 東京高等工芸学校　　など

国指定重要文化財　旧徳川家松戸戸定邸
国指定名勝　旧徳川昭武庭園

市指定有形文化財
松戸神社神楽殿杉戸絵

市指定有形文化財
旧陸軍工兵学校正門

板倉鼎　«沼»　油彩画
松戸市教育委員会所蔵

【課題】
- 〔調査〕水戸道中や鮮魚街道の調査、戸定邸と徳川昭武に関する研究の継続　など
- 〔保存〕文化財の定期的な現状確認、美術作品や資料の分散収蔵、戸定邸の適切な維持管理　など
- 〔活用〕旧宿場町の佇まいを生かす取り組み、戸定歴史館の展示スペース不足　など

【施策】
- 〔調査〕水戸道中と鮮魚街道、戸定邸と徳川昭武、松戸に関連する美術作品の調査研究を促進　など
- 〔保存〕個人蔵の文化財等の現状確認の推進、戸定邸の保存活用計画の策定　など
- 〔活用〕旧宿場町の民家の観光への活用、戸定歴史館の展示空間の刷新　など

【取組例】
- 〔調査〕**1　新たな文化財の把握調査**
  水戸道中や鮮魚街道の新たな視点からの把握調査を実施する
  ■博物館、専門家　■R7～12
- 〔保存〕**5　美術作品・資料に関する調査**
  東京高等工芸学校及び千葉大学工学部に関連する日本近代デザイン史、建築史等に関する調査を行う
  ■美術館準備室　■R5～12
- 〔活用〕**19　「戸定邸保存活用計画」の策定と推進**
  戸定邸保存活用計画を策定する。防災対策の実施や大規模修理、徳川昭武居住期の状態への復原を目指すための調査を実施する。
  ■戸定歴史館、専門家　■R5～12